

## 中央区地域ケアWEB研修会 新型コロナ禍での多職種連携探る

大阪府中央区南・東医師会などで組織する中央区地域ケア研究集会実行委員会は令和2年12月5日午後、「コロナとどう向き合いどう連携する——それぞれの対応に学び、揺らぐ心を支えあう」をテーマにオンラインで研修会を開催した。今回はコロナ禍の中、新たな研修の在り方への挑戦と位置付けての実施となった。

第1部は動画投稿サイトでの配信とし、冒頭に小島実行委員長（中央区南医師会長）があいさつ。次いで、吉村浩・中央区長より研修会開催への激励とコロナ対策の現状・展望に関する説明がなされた。

続いて「現場からの報告」として、発熱外来で新型コロナ関連検査に取り組む小島実行委員長より最新の情報が報告された。次に、金永進氏（同医師会理事）が座長を務め、「新型コロナに関連した各分野の対応・連携・備え」について、歯科医師会・薬剤師会・各事業者連絡会の代表から現状が述べられた。なお、ここまでの視聴者数は111人に及んだ。

第2部はオンライン（ZOOM）で意見交換会を実施し、参加者71人が6～7人のグループに分かれて討議した。最後に前久保邦昭・中央区東医師会長よりあいさつがあり閉会となった。初のオンライン開催であったが、予定通りに進行し、参加者からは概ね好評であった。研修会後のアンケートでは、▽オンライン方式は参加しやすい▽画面を通じて地域の仲間であることを感じた▽次の一手を打つために効果的な取り組み▽小島実行委員長の発熱外来への取り組みは、医療・介護活動の重要性を再認識する機会になった——などの意見が挙げられた。

一方、「意見交換の時間が短くて残念だった」「対面での実施が可能になれば、意見交換会にも参加したい」などの声もあり、オンラインと参加型の組み合わせなど課題が残ったものの、今後の工夫により地域の仲間と連携を深められると感じている。

### 中央区地域ケア研究集会の歴史の転換期！？

今回、9年続いていた「地域ケア研究集会」が、新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得ない状況であった。しかし、実行委員会・事務局で何度も協議を重ね、オンラインでの開催に至った。新たな試みに難色を示す方も出ると予想していたが、事前説明機会や資料提供、当日のトラブル相談窓口などを設置し、ある程度回避できた。無理のないスケジュールで実施できたことは収穫であった。

（レポーター 堤端コーディネーター）

